施政方針に対する 代表質問

定例月会議初日に示された市長の施政方針や令和４年度予算に対して３月１日、２日の２日間にわたり、各会派からの代表者６人により「代表質問」が行われました。（質問者の文責により、質問と答弁の要旨を掲載）

各議員の記事にあるＱＲコードを読み込むと、代表質問の動画を視聴できます。（通信費は利用者の負担となります。）

夢・希望を持ち実現できるふるさと秦野を目指して

創和会　福森　真司

一　市長の政治姿勢について

問　**市長が公約に掲げる「５つの誓い２０２２」の実現への想いと、今後の市政運営に向けた市民へのメッセージはどのようか。**

答　多くの市民の想いや願いを集約し、本市の未来を見定めた上で新たな目標として掲げた施策を具体化する。夢と希望に満ちた「ふるさと秦野」のため、全身全霊で市政運営に当たる覚悟である。

要望　**本市を愛する先人たち、地域の努力の結晶である新東名高速道路の開通を契機に、全国屈指の森林観光都市に導いてほしい。**

二　新年度予算の基本姿勢と評価について

問　**社会情勢の変化への対応が必要な中、過去最大となる令和４年度予算の基本姿勢と評価はどうか。**

答　新型感染症の拡大防止と社会経済活動の両立を最優先に総力を挙げスピード感を持って取り組む。将来の財政需要を見極め、都市像実現に向けた施策に重点配分した。

三　地域共生社会の実現に向けた高齢者、障がい者への支援の充実について

問　**全ての人が元気で安心して暮らせる地域社会の創出に向けた、支援の充実に対する考えはどうか。**

答　互いに尊重され共に支え合う地域共生社会の実現のため地域や関係機関と連携しコミュニティーの活性化や就労機会の充実を図る。

四　教育水準の改善・向上について

問　**民間や地域と連携した学習支援など、これまでの成果を踏まえた今後の進め方はどのようか。**

答　市民力を生かした寺子屋方式の放課後学習支援事業や非認知能力に着目した学力向上施策である学びの基盤プロジェクトなど令和４年度において一層の拡充を図る。

五　幼児教育・保育の質の充実について

問　**特色ある幼児教育・保育の質の充実は、まちづくりに重要な要素だが、今後の展開はどのようか。**

答　教育水準の向上には集団性の確保が重要となる。引き続き、より良い幼児教育・保育環境の整備に向けて取り組んでいく。

六　表丹沢魅力づくり構想の推進について

問　**構想の具現化には、都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地としてのブランド化が必要と考えるが、取り組みはどのようか。**

答　表丹沢の魅力に触れられる総合ＨＰの運用や、通年の体験をまとめた（仮称）表丹沢ツーリズムの構築などにより、ブランド化とファンづくりを推進する。

要望　**多くの人が本市の魅力を知り、触れてもらえるよう積極的なブランディングを進めてほしい。**

七　戸川土地区画整理準備組合への技術支援について

問　**権利者の合意形成を図る取り組みを着々と進めているが、組合設立までの展望はどのようか。**

答　これまで準備組合では、事業計画案の確定、仮同意の収集、関係機関協議、業務代行予定者の決定を順次進めている。本市としても準備組合、業務代行予定者と連携しながら、話し合いにより事業への理解が得られるよう取り組む。

上地区から市域全体

表丹沢の魅力づくりと小田急線４駅周辺のにぎわい創造の一体的な推進を

自民党・新政クラブ　風間　正子

一　全国屈指の森林観光都市について

問　**全国屈指の森林観光都市を目指すに当たり、本市が誇る表丹沢の森林資源の活用と、小田急線４駅周辺のにぎわい創造とのつながりはどのようか。**

答　市域の53％を占める森林を含む表丹沢の魅力づくりに加え、駅周辺の土地活用を推進することで、豊かな自然と活気ある市街地に多くの来訪者を迎えたい。

二　学校給食と地産地消について

問　**令和３年12月に始まった中学校給食に地場産品の活用が決まったが、国による有機農業の推進を踏まえ、有機農産物を学校給食に取り入れる考えはどうか。**

答　給食費を財源とする学校給食においては有機農業の付加価値を価格に転嫁しづらい面はあるが、食育としての効果を踏まえ、供給に向けて関係機関と協議したい。

要望　**全て秦野産の食材を用いた給食を実施してはどうか。また、残さの資源化を検討してほしい。**

三　移住・定住活性化プロジェクトについて

問　**令和３年度は約４００人の転入超過であったと聞く。移住の機運を的確に捉えるには、ワンストップ窓口による丁寧な対応が重要と考えるが、どうか。**

答　住宅政策・移住相談担当を新設し、移住に関する総合的な窓口としてきめ細かな対応に努めたい。

要望　**４年度に作成する移住・定住ガイドブックには、子育てや教育などの情報も盛り込んでほしい。**

四　市民と行政が共に力を合わせて創るまちづくりについて

問　**令和３年７月に開催された高校生議会を受け※学生団体Ｅ４から陳情が提出されるなど、まちづくりの主役となる若者の参画が必要だが、活動拠点の整備はどうか。**

答　駅周辺など利便性の高い拠点を求める声を踏まえ、県が進める県道７０５号の整備に合わせて活動拠点の整備を検討したい。

TANZAWA LIFEポータルサイト

「５つの誓い２０２２」の着実な推進を望む

市民クラブ　大野　祐司

一　総合計画と５つの誓いと令和４年度予算の関係性について

問　**総合計画に対し、市長選挙で掲げられた「５つの誓い」では、２項目が追加されている。その理由と期待される効果はどのようか。**

答　「５つの誓い」は総合計画のリーディングプロジェクトをベースとしているが、これに２つの想いを加えた。一つ目は、４駅周辺を持続可能な都市拠点として全体的に底上げしたいとの想いであり、民間活力を生かす起爆剤として、にぎわいの創造を推進していく。もう一つは、新たな課題に積極果敢に挑戦できる職場風土や、人材を育みたいとの想いから加えた市役所改革である。「１人の百歩より百人の１歩」を目指すと共に、職員一丸となって、文字通り「市民の役に立つ所」を目指す。

問　**４年度予算には「５つの誓い」が、どの程度反映され、４年度ではどれほど実現するのか。**

答　市長選挙時にマニフェストで掲げた項目の９割以上に対し、予算配分を行った。実現率を一概に答えるのは困難だが、任期中におけるロードマップを描いた上で着実に前へと進めていきたい。

問　**「全国屈指の森林観光都市」とは、具体的にどのようなものか。**

答　「先祖から受け継いできた森林（もり）に光を当て、全国の人に見てもらいたい」、「自然と都市機能が調和した持続可能なまちを創造したい」という決意を表したものである。他の地域に類を見ない地域資源が広く点在し、無限の可能性を秘めている本市の新たなまちの姿を全国に発信していきたい。

二　電子地域通貨の導入検討について

問　**以前は、コロナ禍での経済対策の実施に当たっては、クーポン券などの紙媒体を用いていたが、電子媒体とする理由は何か。**

答　紙媒体での多大な業務負担などが課題だった。ポストコロナを意識し電子媒体の導入を検討する。

未来ある子どもたちのために一層の配慮を

公明党　中村　英仁

一　新型感染症ワクチン接種について

問　**感染拡大防止の鍵はワクチンだと考えるが、５歳から11歳までの接種券の発送や情報提供、接種体制について、本市の対応はどのようか。**

答　本人や保護者に接種への理解を深めてもらえるよう、厚生労働省や本市が作成した小児向けの案内を同封して情報提供している。接種は令和４年４月７日より開始するため、安心して接種できるよう集団接種会場には小児科医師を配置し、準備を進めている。

二　通学路の安全対策について

問　**市内の通学路の点検や安全対策が必要と感じるが、令和４年度における取り組みはどのようか。**

答　４年度はこれまで取り組んできたグリーンベルトの整備や啓発看板の設置に加え、運転者の視覚に直接訴えるような路面標示による対策を進める。

三　支援を必要とする子ども・家庭への対応について

問　**令和４年度における、児童虐待やヤングケアラーなどの問題への本市の取り組みはどのようか。**

答　家事や家族の世話など重い負担を担うヤングケアラーなど、表面化しにくい家庭内の複合的な課題を早期に把握するため、福祉や教育、医療などの関係機関の職員に向けた周知や研修、広く市民に向けた学ぶ機会の確保に取り組む。

四　園小中一貫教育の推進について

問　**本市では、10年以上にわたり園小中一貫教育に取り組んできたと認識しているが、今後の推進の考えはどのようか。**

答　誰もが輝く暮らし良い都市（まち）を目指したインクルーシブ教育の推進を図るため、新たに特別支援教育等コーディネーターを配置し就学前と義務教育の円滑な接続を強化する。また、国が新たに始める幼保小の架け橋プログラムとの連携も視野に入れ準備を進めている。

用語解説　※学生団体Ｅ４（イーフォー）…公益社団法人秦野青年会議所が主催した「秦野高校生議会2018」の参加者有志が中心となって立ち上げた高校生団体。Eager（熱心に）、Enjoy（楽しく）、Effort（努力を怠らず）、Effect（私たちの秦野に良い影響を与えられるように活動しよう）という思いが込められている。